

第62期のご報告

平成21年4月1日～平成22年3月31日

株主のみなさまへ

 **小野薬品工業株式会社**

証券コード 4528

目次

株主のみなさまへ	1
経営方針	2~3
営業の概況	4~13
連結決算報告	14~15
単独決算報告	16~17
主な開発品	18~21
トピックス	22~27
株式の状況	28
会社の概況	29

*Dedicated to
Man's Fight against
Disease and Pain*



■水無瀬研究所建設記念モニュメント

1968年(昭和43年)に
中央研究所(現在の水無瀬研究所)の
建設を記念して建立されたモニュメント。
小野薬品の経営理念である
「Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain」
(病気と苦痛に対する人間の戦いのために)と
刻まれている。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第62期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

相良 暁

1 経営の基本方針

当社は、「病気と苦痛に対する人間の戦いのために」という経営理念のもと、未だ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる独創的な新薬開発を目指し、特定分野に特化した研究開発型国際製薬企業の実現に向けて積極的な努力を続けています。

また、人の生命に関わる医薬品を取り扱う製薬企業としての責任を深く自覚し、法令遵守はもとより高い倫理観に基づき行動するべく、コンプライアンスの一層の強化に努めています。

研究面におきましては、これまで培ってきた当社の技術やノウハウを活かし、今後とも当社の強みを発揮できる領域やバイオ医薬品など当社が保有する遺伝子資産を有効に活用できる領域での医薬品創製を進めるとともに、医療現場の未だ満たされていないニーズに即した医薬品創製にも積極的に取り組んでいます。

また、欧米のバイオベンチャーとの創薬提携や大学など研究機関との研究提携を強力に推進することにより、画期的な創薬シーズや世界最先端

の技術を取り込み、当社の創薬研究を推進しています。

開発面におきましては、世界に通用する新薬の承認取得を目指し、欧米での承認取得をファーストプライオリティ(最優先)として、海外での臨床開発に積極的に取り組んでいます。

また、国内での開発につきましては、開発後期段階にある化合物の早期承認に取り組むとともに、開発早期段階にあるプロジェクトについては、国際共同治験や先行する海外臨床試験成績を活用して承認申請するなど、開発スピードを一層早められるよう取り組んでいます。

さらに、新薬候補化合物の導入などライセンス活動に積極的に取り組むことにより、開発パイプラインの拡充に努めています。ライセンス活動の対象となります企業が、主に欧米の製薬企業やバイオベンチャーでありますことから、昨年7月にはオノ・ファーマ・ユーエスエー インクにグローバル・新薬提携部を新設して活動の拠点を日本から米国に移し、より積極的に活動を推進しています。

営業面におきましては、当社医薬品の製品価値を一層向上させるため、研究会や講演会を中心と

した学術情報活動を積極的に展開し、多様化する医療関係者のニーズに応えられるよう、常に最新の医学に裏付けされた質の高い情報提供活動の充実に取り組んでいます。

今後とも薬価の改定や医療費を抑制するための諸施策の浸透により、少なからぬ影響を受けるものと思われませんが、新製品の市場育成と既存品の売上拡大により、安定的な成長の実現に努めていきます。

生産面におきましては、高い品質の確保を実現するため、法令等に基づき確立された製造方法の厳守や厳格な品質評価に努め、また、原材料や製品の在庫管理、施設管理の充実に図り、製品を安定して供給できるように取り組んでいます。なお、工程改善や作業の効率化などによる原価の低減にも積極的に取り組んでいます。

今後とも、高い倫理観をもってコンプライアンスを徹底し、安定した高度な品質の維持、生産性の向上、コストダウンを図るために、生産業務全般にわたり改善・改革を進めていきます。

2 利益配分に関する基本方針

利益配分につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策の一つと位置づけ、安定的な配当の継続を重視しつつ、期間業績を考慮した成果の配分を行っていきたいと考えています。

業績の概要

当期における日本経済は、年度後半の米国経済の回復や新興国需要の高まりに伴い、一部景気の持ち直しが見られたものの、雇用情勢の悪化懸念や消費低迷は根強く、経済情勢は依然として厳しい状況が続きました。こうした中で国内医薬品業界は、薬剤費の抑制を目的とした諸施策が一段と激化するなど、引き続き厳しい環境下に推移しました。

このような状況のもと、当社は、独創的かつ画期的な新薬開発および製品価値のさらなる向上を目指し、研究開発体制の一

層の強化と主要製品を中心とした学術情報活動の充実を図るとともに、経営全般にわたり効率化に努めましたが、本年4月の薬価改定前の買い控えや後発品普及促進策によるマイナス影響が想定以上に大きかったことなどもあり、当期の業績は、以下のようにになりました。

●売上高

前期比5億円(0.4%)減の1,359億円

主要製品の状況ですが、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」が、腰部脊柱管狭窄症の適応領域で新規処方拡大がさらに進みましたほか、過活動膀胱治療剤「ステープラ錠」も、当該市場での育成が順調に進み、売上を伸ばしました。さらに、昨年4月に骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」が新発売となり、また、同年12月には、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」がそれぞれ新発売となり、売上に寄与することとなりました。

一方、競合品との競争激化や後発品の影響などから、気管支喘息・アレルギー性

売上高	1,359億8千6百万円 (対前期比 0.4%減)
営業利益	398億4千万円 (対前期比 8.4%減)
経常利益	427億1千1百万円 (対前期比 8.6%減)
当期純利益	278億7千8百万円 (対前期比 17.3%増)

鼻炎治療剤「オノンカプセル」や気管支喘息(小児)治療剤「オノンドライシロップ」、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」などの売上が減少し、売上高全体としては前期比5億円(0.4%)減の1,359億円となりました。

主な製品の売上高は、下記のとおりです。

(単位：億円)

製品名	売上高	対前期比
オバルモン錠	446	6.4%
オノンカプセル	251	△7.3%
キネダック錠	161	△7.0%
フオイバン錠	127	△4.8%
オノンドライシロップ	91	△6.7%
注射用エラスポール	52	△5.3%
ステープラ錠	46	62.4%
注射用オノアクト	31	3.4%

平成21年度に発売した新製品

(単位：億円)

製品名	売上高	発売年月
グラクティブ錠	15	平成21年12月
リカルボン錠	9	平成21年 4月
イメンドカプセル	5	平成21年12月

(注)売上高は出荷価格ベースで表示しています。

●営業利益

前期比36億円(8.4%)減の398億円

売上高が前期比5億円(0.4%)減の1,359億円となり、売上原価は前期比4億円(2.3%)減の208億円、販売費及び一般管理費が前期比35億円(4.9%)増の753億円となりました結果、営業利益は前期比36億円(8.4%)減の398億円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち研究開発費につきましては、引き続き積極的な研究開発活動を進め、前期比13億円(3.5%)増の397億円となりました。また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、新製品上市に伴う販売促進費の増加などで前期比22億円(6.6%)増の355億円となりました。

●経常利益

前期比40億円(8.6%)減の427億円

受取利息及び受取配当金が前期比3億円減少したことなどで、営業外損益が前期比4億円(12.5%)減の28億円となり、経常利益は前期比40億円(8.6%)減の427億円となりました。

●当期純利益

前期比41億円(17.3%)増の278億円

当期は、特別利益として過年度研究開発費の戻入益など4億円を計上し、特別損失はありませんでした。なお、前期の特別損益は、投資有価証券評価損の計上などから64億円の損失でしたので、当期の特別損益は、前期比69億円改善しました。

また、当期から試験研究費の税額控除の上限が拡大されたことなどもあり、税金費用が前期比12億円減少しました。

以上の結果、当期純利益は前期比41億円(17.3%)増の278億円となりました。

研究開発活動

当社は、「病気と苦痛に対する人間の戦いのために」という経営理念のもと、世界に通用する独創的な医薬品の開発を目指し、特定分野に特化した研究開発型国際製薬企業の実現に向けて積極的な努力を積み重ねています。

研究面におきましては、これまで培ってきた技術やノウハウを活かし、今後とも当社の強みを発揮できる生理活性脂質領域と酵素阻害薬領域に引き続き重点的に取り組むとともに、神経科学分野の研究で培ったノウハウやゲノム資産を有効に活用できる膜輸送制御薬やバイオ医薬品などの領域も新たなチャレンジ領域として取り組むことで、世界に通用する独創的かつ画期的新薬の創製を目指しています。さらに、医療現場の未だ満たされていないニーズを踏まえ、既存の医薬品の付加価値を高めた新薬候補化合物の創製にも取り組んでいます。

また、さらなる創薬力の強化を目指して、欧米のバイオベンチャーとの創薬提携や大

学など研究機関との研究提携を積極的に推進しています。酵素阻害薬領域におきましては、アンサリス(米国ローカス社の事業部門)や独エボテック社と創薬提携を実施中であり、順調に研究が進捗しています。膜輸送制御薬領域では、英国ゼンション社に加え、昨年10月には独エボテック社と新たに創薬提携契約を締結しました。また、本年3月には、米国バイオシーク社と生理活性脂質領域における創薬提携を開始しました。これらの提携では、炎症、免疫、癌、中枢性疾患および疼痛などの疾患領域における新薬候補化合物の創製に取り組んでいます。さらに、将来新薬創製につながると期待される新しい創薬標的の探索を目指し、先進的な研究を展開している研究機関との提携も積極的に進めています。

開発面におきましては、世界に通用する新薬の承認取得を目指し、海外での臨床開発に積極的に取り組んでいます。骨粗鬆症治療薬ONO-5334および過活動膀胱治療薬ONO-8539は、欧州においてフェーズⅡ試験を実施しています。

多発性硬化症治療薬ONO-4641は、日米欧での国際共同治験としてフェーズⅡ試験を開始しました。日産化学工業株式会社から導入した血小板減少症治療薬ONO-7746は、米国でフェーズⅠ試験を開始しました。また、ブリストル・マイヤーズスクイブ社と共同開発しております抗がん薬ONO-4538は、米国でフェーズⅠ試験を実施しています。

一方、国内では、昨年12月に発売した癌化学療法に伴う悪心・嘔吐の治療剤「イメンドカプセル」、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」に続く新製品の上市に向け、過活動膀胱治療薬「ステープラOD錠」(剤型追加)、アルツハイマー型認知症治療薬「リバスタッチテープ」を承認申請しました。また、「グラクティブ錠」や「注射用オノアクト」の効能追加、骨粗鬆症治療薬ONO-5920(月1回経口製剤)、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐の治療薬ONO-7847(「イメンドカプセル」の注射剤)などのフェーズⅢ段階にあるテーマについては、一日も早い承認取得に向けて全力で取り組んでいます。

営業の概況(連結決算)

また、開発早期段階にあるテーマについては、国際共同治験や先行する海外臨床試験の成績を活用して、よりスピーディーに開発を進めていきたいと考えています。

ライセンス活動については、昨年7月、米国現地法人であるオノ・ファーマ・ユーエスエー インクにグローバル・新薬提携部を設立し、開発パイプラインのさらなる拡充に努めています。昨年9月には、米国タイオガ社

から下痢型過敏性腸症候群の治療薬として米国で開発中の「アシマドリン」の日本・韓国・台湾における独占的開発・販売権を獲得するなど、着実に成果をあげています。

今後とも、開発後期段階にある化合物の獲得に重きを置き、開発早期段階(前臨床やフェーズI段階)にある有望化合物の獲得も視野に入れ、日米欧での導入活動を積極的に推進していきます。

①国内開発品の状況

(a) 承認を取得した開発品

製品名 / 開発コード	効能 / 薬理作用	
イメンドカプセル※1 (ONO-7436)/MK-0869	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 ／ニューロキニン1受容体拮抗作用	導入 (メルク社)
グラクティブ錠※2 (ONO-5435)/MK-0431	2型糖尿病 / DPP-4阻害作用	共同 (万有製薬)

※1：選択的ニューロキニン1受容体拮抗抑制剤「イメンドカプセル」は、昨年10月16日に製造販売承認を取得しました。

※2：2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は、昨年10月16日に製造販売承認を取得しました。

(b) 申請中の開発品

製品名 / 製品名候補 / 開発コード	予定効能 / 薬理作用	
ステープラOD錠※3 (ONO-80250D)/KRP-1970D	過活動膀胱 / ムスカリン受容体拮抗作用	共同 (杏林製薬)
リバスタッチテープ※4 (ONO-2540)/ENA713D	アルツハイマー型認知症 ／コリンエステラーゼ阻害作用	共同 (ノバルティスファーマ)

※3：過活動膀胱治療薬「ステープラOD錠」は、昨年12月に製造販売承認申請をしました。

※4：アルツハイマー型認知症治療薬「リバスタッチテープ」は、本年2月に製造販売承認申請をしました。

(c) 臨床試験中の開発品

製品名 / 製品名候補 / 開発コード	予定効能 / 薬理作用	フェーズ	
ONO-7847※5/MK-0517	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 ／ニューロキニン1受容体拮抗作用	Ⅲ	導入 (メルク社)
グラクティブ錠 (ONO-5435)/MK-0431(効能追加)	2型糖尿病(α-グルコシダーゼ阻害剤との併用療法) / DPP-4阻害作用 2型糖尿病(インスリン製剤との併用療法) / DPP-4阻害作用	Ⅲ	共同 (万有製薬)
ONO-5920/YM529 (用法・用量変更)(月1回経口製剤)	骨粗鬆症 / 骨吸収抑制作用 (ビスホスフォネート系製剤)	Ⅲ	共同 (アステラス製薬)
注射用オノアクト※6 (効能追加)	マルチスライスCTによる冠動脈造影能の改善 ／β ₁ 遮断作用(短時間作用型)	Ⅲ	自社

製品名／製品名候補／開発コード	予定効能／薬理作用	フェーズ	
イメンドカプセル ^{※7} (ONO-7436)/MK-0869 (小児での効能追加)	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 ／ニューロキニン1受容体拮抗作用	Ⅲ	導入 (メルク社)
注射用エラスポール ^{※8}	市中肺炎に伴う急性呼吸不全 ／好中球エラスターゼ阻害作用	Ⅱ	自社
ONO-4641 ^{※9}	多発性硬化症／S1P受容体作動作用	Ⅱ	自社
ONO-7643/RC-1291	癌性悪液質／グレリン様作用	Ⅰ	導入 (ヘルシン社)
ONO-5334	骨粗鬆症／カテプシンK阻害作用	Ⅰ	自社
ONO-8539	過活動膀胱／EP1受容体拮抗作用	Ⅰ	自社
ONO-4538 /BMS-936558(MDX-1106)	癌／完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	自社
ONO-3849 ^{※10}	オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘 ／μオピオイド受容体拮抗作用	Ⅰ	導入 (プロジェクトニクス社)
ONO-2745 ^{※11} /CNS 7056	全身麻酔／GABA _A 受容体作動作用(短時間作用型)	Ⅰ	導入 (バイオン社)

※ 5：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐の治療薬ONO-7847は、フェーズⅢ試験を開始しました。

なお、本剤は「イメンドカプセル(ONO-7436)」を注射剤に改変したものです。

※ 6：「注射用オノノアクト」は、マルチスライスCTによる冠動脈造影能の改善での効能追加を目的としたフェーズⅢ試験を開始しました。

※ 7：「イメンドカプセル(ONO-7436)」は、小児での効能追加を目的としたフェーズⅢ試験を開始しました。

※ 8：「注射用エラスポール」は、市中肺炎に伴う急性呼吸不全での効能追加を目的とした開発を中止しました。(本年4月)

※ 9：多発性硬化症治療薬ONO-4641は、フェーズⅡ試験を開始しました(日米欧三極での国際共同治験)。

※ 10：オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘治療薬ONO-3849は、フェーズⅠ試験を開始しました。

※ 11：全身麻酔薬ONO-2745は、フェーズⅠ試験を開始しました。

② 国外開発品の状況

臨床試験中の開発品

製品名／製品名候補／開発コード	予定効能／薬理作用	フェーズ	
ONO-5334	骨粗鬆症／カテプシンK阻害作用	Ⅱ	自社
ONO-8539	過活動膀胱／EP1受容体拮抗作用	Ⅱ	自社
ONO-4641 ^{※12}	多発性硬化症／S1P受容体作動作用	Ⅱ	自社
ONO-4538 /BMS-936558(MDX-1106)	癌／完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	共同 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社)
ONO-4538 /BMS-936558(MDX-1106)	C型肝炎／完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	共同 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社)
ONO-7746 ^{※13}	血小板減少症／トロンボエチン受容体作動作用	Ⅰ	導入 (日産化学工業)

※ 12：多発性硬化症治療薬ONO-4641は、フェーズⅡ試験を開始しました(日米欧三極での国際共同治験)。

※ 13：血小板減少症治療薬ONO-7746は、米国でフェーズⅠ試験を開始しました。

財政状態

●資産・負債及び純資産の状況

総資産は、前期末に比べ119億円増加して、4,332億円となりました。

流動資産は、前期末に比べ12億円増加して、1,818億円となりました。

固定資産は、前期末に比べ106億円増加して、2,513億円となりました。これは、保有する株式の時価上昇などにより、投資有価証券が122億円増加したことなどによります。

負債は、前期末に比べ41億円減少して、271億円となりました。

また、純資産は、前期末に比べ160億円増加して、4,061億円となりました。これは、剰余金の配当金の支払195億円がありました。一方、当期純利益の計上278億円、その他有価証券評価差額金の増加75億円があったことなどによります。

●キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、213億円の収入(前期比32億円、収入の減少)となりました。主な内訳としては、法人

税等の支払180億円、たな卸資産の増加45億円などのキャッシュの減少要因がある一方で、税金等調整前当期純利益431億円などのキャッシュの増加要因がありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、168億円の収入(前期比138億円、収入の減少)となりました。主な内訳としては、有価証券及び投資有価証券の取得による支出があったものの、売却・償還等による収入があり、差し引き205億円の収入となったこと、有形固定資産の取得による支出32億円がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、195億円の支出(前期比294億円、支出の減少)となりました。主な内訳としては、配当金の支払195億円がありました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末残高に比べて186億円増加し、720億円となりました。

(資産、負債及び純資産の状況)

	当期末	前期末	増減
総資産	4,332億2千6百万円	4,212億8千万円	119億4千5百万円
純資産	4,061億9百万円	3,900億4千1百万円	160億6千8百万円
自己資本比率	92.9%	91.8%	—
1株当たり純資産	3,701.49円	3,555.54円	145.94円

(キャッシュ・フローの状況)

	当期	前期	増減
現金及び現金同等物期首残高	534億6千万円	474億3千3百万円	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	213億1百万円	245億2千5百万円	△32億2千3百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	168億7千6百万円	307億2千7百万円	△138億5千万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△195億6千8百万円	△490億1千8百万円	294億5千万円
換算差額	2千6百万円	△2億6百万円	2億3千3百万円
増減	186億3千6百万円	60億2千7百万円	—
現金及び現金同等物期末残高	720億9千7百万円	534億6千万円	—

次期の見通し

●売上高

前期比69億円(5.1%)減の1,290億円

2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」、過活動膀胱治療剤「ステープラ錠」、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメントカプセル」、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」といった新製品の市場育成による売上拡大に努めますとともに、既存の主力品について引き続き潜在市場の開拓活動に取り組みますが、薬価改定の影響(6%台の半ば)に加え、後発品普及促進策の浸透によるマイナス影響が一層拡大することが懸念されますことから、売上高は前期比69億円(5.1%)減の1,290億円を予想しています。

●営業利益

前期比78億円(19.7%)減の320億円

経費のさらなる効率化に加えて退職給付費用の負担減などもあり、販売費及び一般管理費は減少するものの、原価率の高い新製品の売上拡大に伴い売上原価が増加する見込みであることから、営業利益は

前期比78億円(19.7%)減の320億円と予想しています。

なお、販売費及び一般管理費のうち研究開発費につきましては、引き続き積極的な研究開発活動を進め、前期比15億円(3.8%)増の412億円となる見込みです。

●経常利益

前期比87億円(20.4%)減の340億円

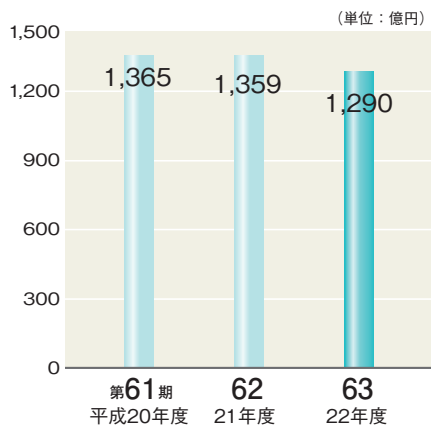
営業外損益は前期比8億円(30.3%)減の20億円と予想しています。

●当期純利益

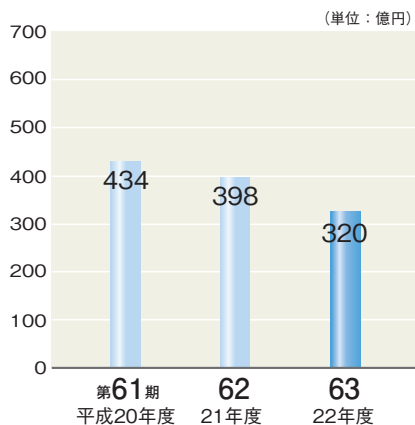
前期比57億円(20.7%)減の221億円

売上高	1,290億円 (対前期比 5.1%減)
営業利益	320億円 (対前期比 19.7%減)
経常利益	340億円 (対前期比 20.4%減)
当期純利益	221億円 (対前期比 20.7%減)

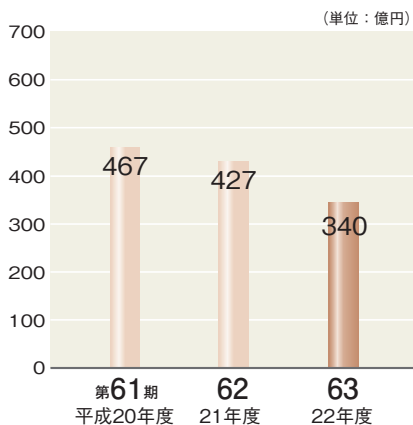
売上高



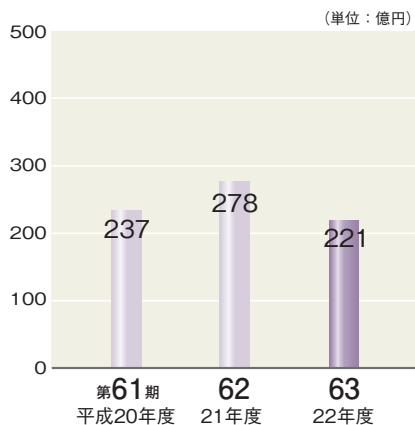
営業利益



経常利益



当期純利益



連結決算報告

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	期別	
	前期	当期
	平成21年3月31日現在	平成22年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	180,556	181,841
現金及び預金	14,102	15,387
受取手形及び売掛金	39,480	31,624
有価証券	102,908	97,830
たな卸資産	10,058	14,626
繰延税金資産	13,061	13,753
その他	954	8,632
貸倒引当金	△ 9	△ 12
固定資産	240,723	251,384
有形固定資産	50,540	50,009
建物及び構築物	24,334	23,631
土地	22,539	22,539
その他	3,666	3,839
無形固定資産	1,032	866
投資その他の資産	189,150	200,508
投資有価証券	178,333	190,628
繰延税金資産	5,146	3,979
その他	5,671	5,909
貸倒引当金	△ 1	△ 8
資産合計	421,280	433,226

(単位：百万円)

科目	期別	
	前期	当期
	平成21年3月31日現在	平成22年3月31日現在
(負債及び純資産の部)		
流動負債	25,459	23,442
支払手形及び買掛金	3,423	2,344
1年内返済予定の長期借入金	1	1
未払法人税等	9,130	8,420
引当金	5,110	5,494
その他	7,794	7,181
固定負債	5,779	3,674
長期借入金	15	14
長期未払金	552	83
引当金	2,239	599
繰延税金負債	20	25
再評価に係る繰延税金負債	2,941	2,941
その他	9	10
負債合計	31,239	27,117
株主資本	393,578	401,868
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	422,565	430,870
自己株式	△ 63,425	△ 63,439
評価・換算差額等	△ 6,956	610
その他有価証券評価差額金	2,170	9,706
土地再評価差額金	△ 8,922	△ 8,922
為替換算調整勘定	△ 203	△ 173
少数株主持分	3,419	3,629
純資産合計	390,041	406,109
負債及び純資産合計	421,280	433,226

連結損益計算書の要旨 (単位：百万円)

科目	期別	
	前期 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	当期 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
売上高	136,556	135,986
売上原価	21,318	20,837
売上総利益	115,238	115,148
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	71,766 (38,383)	75,307 (39,711)
営業利益	43,471	39,840
営業外収益	3,658	3,387
営業外費用	377	517
経常利益	46,752	42,711
特別利益	1,326	431
特別損失	7,808	—
税金等調整前当期純利益	40,271	43,142
法人税、住民税及び事業税	16,216	17,393
法人税等調整額	51	△ 2,337
少数株主利益	235	209
当期純利益	23,766	27,878

(注) 1株当たり当期純利益
 前期 216円07銭
 当期 256円38銭

連結株主資本等変動計算書の要旨 (単位：百万円)

科目	期別		
	前期 平成21年3月31日現在	当期中 の変動額	当期 平成22年3月31日現在
資本金	17,358	—	17,358
資本剰余金	17,079	—	17,079
利益剰余金(注)	422,565	8,305	430,870
自己株式	△ 63,425	△ 14	△ 63,439
株主資本合計	393,578	8,290	401,868
その他有価証券評価差額金	2,170	7,536	9,706
土地再評価差額金	△ 8,922	—	△ 8,922
為替換算調整勘定	△ 203	30	△ 173
評価・換算差額等合計	△ 6,956	7,566	610
少数株主持分	3,419	210	3,629
純資産合計	390,041	16,068	406,109

(注) 利益剰余金の変動要因
 当期純利益 27,878百万円
 剰余金の配当 △19,572百万円

単独決算報告

貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	期別	
	前期 平成21年3月31日現在	当期 平成22年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	176,527	177,594
現金及び預金	11,610	12,339
受取手形及び売掛金	38,875	31,042
有価証券	102,457	97,699
たな卸資産	9,685	14,252
繰延税金資産	12,955	13,655
未収入金	65	7,419
その他	881	1,192
貸倒引当金	△ 2	△ 6
固定資産	237,978	248,542
有形固定資産	48,798	48,503
建物及び構築物	23,210	22,613
土地	22,525	22,525
その他	3,061	3,364
無形固定資産	1,030	862
投資その他の資産	188,149	199,176
投資有価証券	177,315	189,298
関係会社株式	255	255
繰延税金資産	5,105	3,938
その他	5,473	5,691
貸倒引当金	△ 1	△ 8
資産合計	414,506	426,137

(単位：百万円)

科目	期別	
	前期 平成21年3月31日現在	当期 平成22年3月31日現在
(負債及び純資産の部)		
流動負債	24,647	22,809
支払手形及び買掛金	2,976	2,042
1年内返済予定の長期借入金	1	1
未払法人税等	9,084	8,320
引当金	5,019	5,409
その他	7,566	7,035
固定負債	5,635	3,516
長期借入金	15	14
長期未払金	552	83
引当金	2,102	454
再評価に係る繰延税金負債	2,941	2,941
その他	23	23
負債合計	30,283	26,325
株主資本	391,018	399,074
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,002	17,002
利益剰余金	420,068	428,137
自己株式	△ 63,410	△ 63,423
評価・換算差額等	△ 6,795	736
その他有価証券評価差額金	2,127	9,659
土地再評価差額金	△ 8,922	△ 8,922
純資産合計	384,222	399,811
負債及び純資産合計	414,506	426,137

損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	期別	前期	当期
		自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
売上高		134,716	134,362
売上原価		20,659	20,202
返品調整引当金繰入差額		△ 31	△ 17
売上総利益		114,088	114,177
販売費及び一般管理費		71,274	74,947
(研究開発費)		(38,405)	(39,981)
営業利益		42,814	39,230
営業外収益		3,644	3,336
営業外費用		352	508
経常利益		46,106	42,058
特別利益		1,326	431
特別損失		7,806	—
税引前当期純利益		39,626	42,489
法人税、住民税及び事業税		16,059	17,191
法人税等調整額		△ 7	△ 2,345
当期純利益		23,574	27,643

(注)1 株当たり当期純利益
 前期 214円30銭
 当期 254円20銭

株主資本等変動計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	期別	前期	当期中 の変動額	当期
		平成21年3月31日現在		平成22年3月31日現在
資本金		17,358	—	17,358
資本剰余金		17,002	—	17,002
利益剰余金(注)		420,068	8,069	428,137
自己株式		△ 63,410	△ 13	△ 63,423
株主資本合計		391,018	8,056	399,074
その他有価証券評価差額金		2,127	7,532	9,659
土地再評価差額金		△ 8,922	—	△ 8,922
評価・換算差額等合計		△ 6,795	7,532	736
純資産合計		384,222	15,588	399,811

(注) 利益剰余金の変動要因
 当期純利益 27,643 百万円
 剰余金の配当 △ 19,574 百万円

主な開発品

ONO-2540/ENA713D リバスタッチテープ

ONO-2540はアセチルコリンエステラーゼおよびブチリルコリンエステラーゼの阻害作用を有するアルツハイマー型認知症治療薬です。本剤は貼付剤であることから、介護者が使用状況を容易に確認できるなど利便性の向上が期待できる薬剤です。

国内：アルツハイマー型認知症 申請中（ノバルティスファーマ株式会社と共同開発）

海外：発売中（ノバルティス社）

ONO-7847/MK-0517 注射剤

ONO-7847はニューロキニン1受容体拮抗薬で、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐を対象として開発を進めています。なお、本剤はイメンドカプセル（ONO-7436）／MK-0869を注射剤に改変したものです。

国内：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 フェーズIII

海外：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 申請中（メルク社）

ONO-4641 錠剤

ONO-4641はS1P（スフィンゴシン-1-リン酸）受容体作動薬で、多発性硬化症を対象として開発を進めています。本剤は血中のリンパ球をリンパ節にとどめ、血中のリンパ球数を減少させる作用を持つ低分子化合物であり、その結果として病巣へのリンパ球浸潤を抑制することで、難病とされる多発性硬化症などの自己免疫疾患の画期的な治療薬になるものと期待しております。

国内：多発性硬化症 フェーズII（日米欧三極での国際共同治験）

海外（米国、欧州）：多発性硬化症 フェーズII（日米欧三極での国際共同治験）

ONO-7643/RC-1291 錠剤

ONO-7643は低分子のグレリン様作用薬で、癌性悪液質を対象として開発を進めています。本剤は食欲増進や筋肉増強などの生理作用を有するホルモンであるグレリンと同様の作用を持つ低分子化合物であり、癌の進行に伴い食欲不振、体脂肪量や筋肉量の低下を特徴とする全身消耗状態（癌性悪液質）にある患者さんのQOLを改善する画期的な薬剤になるものと期待しております。

国内：癌性悪液質 フェーズI

海外（米国など）：癌性悪液質 フェーズII（ヘルシン社）

ONO-5334

錠剤

ONO-5334はカテプシンK阻害剤で、骨粗鬆症を対象として開発を進めています。ビスホスフォネート製剤と異なり、骨形成に影響を及ぼさず、骨吸収のみを抑制する新しい作用メカニズムの骨粗鬆症治療薬です。

国内：骨粗鬆症 フェーズI

海外(欧州)：骨粗鬆症 フェーズII

ONO-8539

錠剤

ONO-8539はプロスタグランジンE2の受容体のひとつであるEP1受容体の選択的な拮抗剤で、過活動膀胱を対象として開発を進めています。既存の抗コリン剤がその作用機序から使用制限されている緑内障や、前立腺肥大症などの下部尿路閉塞を伴う患者さんに対しても使用可能な薬剤になると期待しています。

国内：過活動膀胱 フェーズI

海外(欧州)：過活動膀胱 フェーズII

**ONO-4538/
BMS-936558(MDX-1106)**

注射剤

ONO-4538は完全ヒト型抗PD-1抗体で、癌などを対象として開発を進めています。PD-1は、リンパ球の表面にある受容体の一種で、生体において活性化したリンパ球を沈静化させるシステム(負のシグナル)に関与しています。癌細胞は、このシステムを利用して免疫反応から逃れているという研究成果が報告されています。ONO-4538は、リンパ球を沈静化させるPD-1の働きを抑制することで、癌細胞やウイルスを異物と認識してこれを排除する免疫反応を増進するものと期待しております。

国内：癌 フェーズI

海外(米国)：癌 フェーズI (プリストル・マイヤーズスクイブ社と共同開発)

海外(米国)：C型肝炎 フェーズI (プリストル・マイヤーズスクイブ社と共同開発)

主な開発品

ONO-3849 注射剤

ONO-3849は末梢の μ オピオイド受容体拮抗薬で、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘を対象に開発を進めています。オピオイド鎮痛薬は癌性疼痛に対して主に使用されているのですが、副作用として難治性の便秘を伴います。本剤はオピオイド鎮痛薬の鎮痛効果に影響を及ぼすことなく、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性の便秘を改善する薬剤です。

国内：オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘 フェーズⅠ

海外：発売中(プロジェニックス社)

ONO-2745 / CNS7056 注射剤

本剤は短時間作用型全身麻酔薬で、全身麻酔時の導入及び維持、ならびに集中治療における人工呼吸管理中の鎮静剤として開発を進めております。本剤はエステルアゼと呼ばれる酵素によって速やかに代謝され、薬剤投与終了後速やかに鎮静効果が消失することから、調節性や安全性に優れる薬剤になるものと期待しています。

国内：全身麻酔 フェーズⅠ

海外(米国)：フェーズⅡ(パイオン社)

ONO-7746 カプセル(日産化学工業株式会社より購入)

ONO-7746は体内において血小板の産生を促進する造血因子であるトロンボポエチンの受容体を活性化することにより血小板を増加させる経口投与が可能な低分子化合物で、血小板減少を伴う種々疾患の出血リスクの軽減や血小板輸血に伴う感染リスクを克服する薬剤として開発できるものと期待しています。なお、日産化学工業株式会社は原薬の開発・製造を担うなど、共同して開発を進めています。

海外(米国)：血小板減少症 フェーズⅠ

ONO-80250D / KRP-1970D ステープラ OD 錠

ステープラOD錠は口腔内崩壊錠です。水なしでも服用できますので、高齢の患者さん、嚥下機能の低下した患者さん、水分の摂取を控えておられる患者さんにも有用であるなど、患者さんの服薬時の選択肢が一層広がるとともに、服薬コンプライアンスの向上が期待できる薬剤です。

国内：過活動膀胱 申請中(杏林製薬株式会社と共同開発)

ONO-5920 / YM529 錠剤

ONO-5920 / YM529は骨粗鬆症治療薬です。なお、本剤はリカルボン錠の間歇経口製剤です。

国内：骨粗鬆症 フェーズⅢ（アステラス製薬株式会社と共同開発）

■ 効能追加

イメンドカプセル

国内：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 フェーズⅢ（小児での効能追加）

グラクティブ錠

国内：2型糖尿病（ α -グルコシダーゼ阻害剤との併用療法）
フェーズⅢ（効能追加）（万有製薬株式会社と共同開発）

2型糖尿病（インスリン製剤との併用療法）フェーズⅢ（効能追加）（万有製薬株式会社と共同開発）

注射用オノアクト

国内：マルチスライスCTによる冠動脈造影能の改善
フェーズⅢ（効能追加）

2型糖尿病治療剤「グラクティブ®錠」 新発売記念学術講演会を開催

当社は、本年1月、2型糖尿病治療剤「グラクティブ®錠（一般名：シタグリブチンリン酸塩水和物）」の新発売を記念し、学術講演会「糖尿病治療 Current Forum-Japan」を開催致しました。

本剤は、消化管で産生されるインクレチンというホルモンを分解する酵素であるジペプチジルペプチダーゼ-4 (DPP-4) を選択的に阻害することにより、血糖値依存的にインスリン分泌を増強して血糖低下作用を発揮する全く新しい作用機序の糖尿病治療薬です。発売前から非常に注目されていたこともあり、当日の講演会には糖尿病の専門医を中心に全国から900名以上の先生方が参加されました。

講演会は、「インクレチン関連薬が築く糖尿病治療の新時代への期待」と題する基調講演に始まり、続いてグラクティブ®錠の臨床成績の紹介、さらには本剤の使用症例に基づき議論が行われました。

そして最後に、新たな糖尿病治療薬としてのグラクティブ®錠の役割および今後の課題について総括が行われるとともに、既存の糖尿病治療薬を含めたなかでのグラクティブ®錠の位置

付けが提示、検討されました。参加された先生方は講演内容を熱心に聴講され、本学術講演会は盛会裡に終了しました。

2007年国民健康・栄養調査によると、日本における糖尿病が強く疑われる人は約890万人、また、糖尿病の可能性が否定できない人は約1,320万人にもものぼるとされています。

しかし、実際に医療機関を受診し、治療を受けておられる患者さんは350万人程度と推定されています。

当社としては、一人でも多くの患者さんにグラクティブ®錠を適正にご使用いただけるよう、今後とも積極的な学術情報活動に努めてまいります。

*シタグリブチンリン酸塩水和物

本剤はMerck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.により創製されたDPP-4の選択的阻害剤で、2004年11月に締結された当社とMerck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.とのライセンス契約に基づき、当社と万有製薬株式会社が国内共同開発したものです。

なお、万有製薬株式会社は本剤を「ジャヌビア®錠」のブランド名で販売しております。

(®): Registered Trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.)

がん化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンド®カプセル」 新発売記念学術講演会を開催

当社は、本年5月、がん化学療法に伴う制吐剤「イメンド®カプセル(一般名: アプレピタント)」の新発売を記念し、学術講演会CINV (Chemotherapy-Induced Nausea and Vomiting) Forum in Tokyoを開催致しました。

講演会では、本剤の臨床研究成績が報告され、がん化学療法を実施・継続する上では、抗悪性腫瘍剤の投与に伴う副作用(悪心・嘔吐など)を出来る限り緩和し、患者さんのQOLを保つことの重要性が指摘されました。また、引き続き行われたシンポジウムでは、チーム医療による“がん化学療法に伴う悪心・嘔吐”への取り組みが紹介されました。

さらに、特別講演では、米国臨床腫瘍学会(ASCO: American Society of Clinical Oncology)の制吐療法ガイドラインや米国立包括癌ネットワーク(NCCN: National Comprehensive Cancer Network)のガイドライン、さらには日本癌治療学会の制吐薬適正使用ガイドラインなどが示され、国際標準化を見据えた本剤の位置付けが確認されました。

当日は、がん治療の専門医を中心に全国から

1,330名の先生方が参加され、講演内容を踏まえた活発な議論も行われ、本学術講演会は盛会裡に終了しました。

アプレピタントはMerck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.Aにより創製された世界初の選択的ニューロキニン1 (NK1)受容体拮抗型製剤で、これまでの国内外の臨床試験成績から、急性期のみならず、既存の治療では効果が不十分であった遅発期の悪心・嘔吐にも有効な薬剤であることが確認されています。

当社としては、いまだ抗悪性腫瘍剤の投与に伴う悪心・嘔吐で苦しんでおられる多くの患者さんに、本剤による新たな治療の選択肢を提供すべく学術情報活動に努めてまいります。

過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠[®](一般名：イミダフェナシン)」の 口腔内崩壊錠を国内で製造販売承認申請

当社と株式会社キョーリンの子会社である杏林製薬株式会社は、2007年6月に新発売しました過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠[®]0.1mg(小野薬品)、ウリトス錠[®]0.1mg(杏林製薬)／一般名：イミダフェナシン」の追加剤型として、口腔内崩壊錠の製造販売承認申請を昨年12月に行いました。

イミダフェナシンは杏林製薬株式会社が創製し、同社と当社が共同開発した新規の抗コリン剤で、ムスカリン受容体サブタイプのM3およびM1に対して選択的な拮抗作用を示すことにより、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿

および切迫性尿失禁を改善します。また、本剤は膀胱選択性が高く、口渇(口内乾燥)が少ない薬剤であり、過活動膀胱患者さんのQOL向上に役立つ薬剤としても高い評価を得ております。

今般、承認申請しました口腔内崩壊錠は水なしでも服用できますので、高齢者や嚥下機能の低下した患者さん、さらには水分の摂取を控えておられる患者さんにも有用であるなど、患者さんの服薬時の選択肢が一層広がるとともに、服薬コンプライアンスの向上に資するものと期待しております。

アルツハイマー型認知症治療薬として初めての経皮吸収型製剤 「リバスチグミン(一般名)貼付剤」を国内で製造販売承認申請

当社とノバルティス ファーマ株式会社は、両社で共同開発を行ってきましたアルツハイマー型認知症治療薬「リバスチグミン(一般名)」の貼付剤(開発コード:ONO-2540/ENA713)について、本年2月に製造販売承認申請を行いました。

リバスチグミンはアルツハイマー型認知症の治療薬としては世界で唯一の経皮吸収型製剤です。

アルツハイマー型認知症は、記憶や思考、行動に関して重要な役割を担っているアセチルコリン(脳内神経伝達物質)の脳内生成が減少することによって発症するといわれています。リバスチグミンは、アセチルコリンの分解酵素であるコリンエステラーゼの阻害薬であり、アセチルコリンエステラーゼとブチリルコリンエステラーゼの両方を阻害する薬剤です。

現在、日本におけるアルツハイマー型認知症の治療薬はドネペジル(一般名)のみであることから、新たな選択肢が望まれており、リバスチグミン貼付剤が患者さんやご家族、医療従事者の方々に貢献できるものと期待しております。

また、近年、利便性及び服薬コンプライアンスの観点から、種々の経皮吸収型製剤が開発されています。本剤も剤形を経皮吸収型製剤とすることで、介護者が薬剤の使用状況を容易に確認できるなど利便性が向上し、服薬コンプライアンスの改善や介護者の負担軽減にもつながるものと考えております。

*リバスチグミン貼付剤

ノバルティス社(本社:スイス)が開発した薬剤で、2007年7月に米国で承認されて以来、EU各国を含む70ヵ国以上で承認されており、軽度から中等度のアルツハイマー型認知症の標準治療薬の一つとして位置付けられています。

米国バイオシーク社と生理活性脂質領域における創薬について提携

当社は、本年3月、米国のバイオベンチャーであるBioSeek, LLC.(本社：南サンフランシスコ市、以下、バイオシーク社)と生理活性脂質領域における創薬について提携契約を締結しました。

本契約の締結により、当社は今後3年間をめぐりにバイオシーク社に研究資金を投入するとともに、創薬研究の進捗に応じた成功報酬を支払います。

一方、バイオシーク社は、当社から研究資金の提供を受け、同社の独創的な創薬技術(バイオマップ®システム)を駆使し、当社が選定した創薬標的に対する医薬品候補化合物の創製を目指します。

なお、当社は、提携に基づきバイオシーク社によって創製された化合物を世界的に開発・販売する権利を有しています。

*バイオシーク社について

バイオシーク社は、ヒト疾患における優れた薬物評価・解析システム(バイオマップ®システム)を有するベンチャー企業です。同社の技術を創薬研究の初期段階から活用することによって、医薬品候補化合物を早期に取得することが期待されます。

*バイオマップ®システムについて

バイオマップ®システムとは、ヒト培養細胞を用いて、医薬品候補化合物の薬理作用を高速で評価する技術です。多数の既存の薬剤が同システムですでに評価されており、その蓄積されたデータを利用して、新しい医薬品候補化合物のヒトでの有効性及び毒性につながる薬理作用を予測することが期待されます。



多発性硬化症治療薬「ONO-4641」の国際共同治験DreaMSを開始

当社は、独創的な新薬開発を目指し、日米欧三極での臨床開発に積極的に取り組んでおります。この度、多発性硬化症の患者さんを対象としてONO-4641の国際共同治験(フェーズⅡ試験)を開始しました。

ONO-4641は、当社の脂質研究から生まれたSIP(スフィンゴシン-1-リン酸)受容体作動薬で、血中のリンパ球をリンパ節にとどめ、病巣へのリンパ球浸潤を抑制することで、多発性硬化症における再発・進行を予防する画期的な治療薬になるものと期待しています。

多発性硬化症は、手足の麻痺やしびれ、歩行障害、視力障害、排尿障害など多様で重篤な神経症状を示す慢性の神経疾患です。多発性硬化症の原因はいまだはっきりしていませんが、ウイルスや細菌などの外敵から体を守る免疫で重要な役割を担っているリンパ球が、何らかのきっかけで自分の体を外敵とみなし誤って自分自身を攻撃してしまう自己免疫疾患のひとつだと考えられています。また、多発性硬化症は20~40代に多く発症し、男性よりも女性に多く発症する傾向があります。日本における推定

患者数はおよそ12,000人ですが、米国では少なくとも35万人、全世界においては約250万人の患者さんがいるとされています。

当社は、多発性硬化症で苦しんでいる全世界の患者さんに少しでも早くお薬をお届けしたいとの思いから、日本も含めた世界同時承認を目指して、日米欧三極での国際共同治験を実施することにいたしました。この国際共同治験は約400例の再発寛解型多発性硬化症患者を対象とした安全性及び有効性に関するフェーズⅡ試験で、日本を含めた日米欧11カ国で実施されています。なお、多発性硬化症の領域での日本を含めた国際共同治験は、当社が初めて実施するものです。



この国際共同治験の試験名はDreaMSとしております。
DreaMS : Drug Research Evaluation for Multiple Sclerosis

株式の状況(平成22年3月31日現在)

株式数

- 1. 発行可能株式総数 …………… 300,000,000 株
- 2. 発行済株式の総数 …………… 120,847,500 株

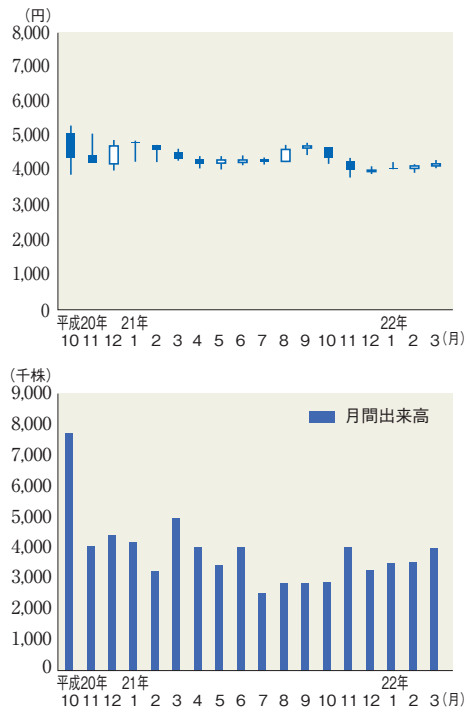
株主数 …………… 13,862 名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	8,380	6.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,595	5.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,858	4.84
明治安田生命保険相互会社	3,718	3.07
株式会社 鶴鳴荘	3,298	2.72
公益財団法人小野奨学会	3,285	2.71
あいおい損害保険株式会社	2,458	2.03
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,380	1.96
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,728	1.43
日清食品ホールディングス株式会社	1,628	1.34

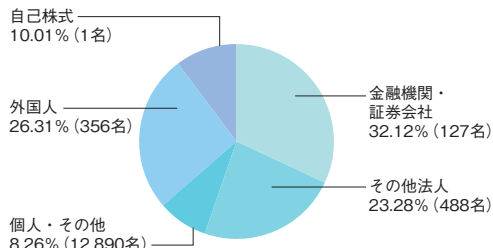
(注)当社は、自己株式12,102千株を保有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。

株価および株式売買高の推移 (大阪証券取引所)

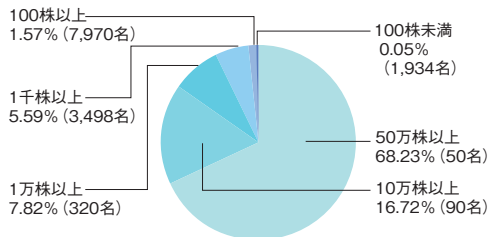


株式の分布状況

所有者別の割合



所有株数別の割合



(注)比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、所有者別あるいは所有株数別の各項目の比率を加算しても100%になりません。

会社の概況(平成22年3月31日現在)

会社概要

社 名 小野薬品工業株式会社
英 文 社 名 ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創 業 享保2年(1717年)
設 立 昭和22年(1947年)
資 本 金 17,358,275,607円
事 業 内 容 医療用医薬品を主体とする各種医薬品の製造、仕入および販売
取 引 銀 行 三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行
従 業 員 数 2,430名

主要な事業所

本 社
〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1-8-2 06(6263)5670
〔登記簿上の本店所在地 大阪市中央区道修町2-1-5〕

支 店
札幌支店、仙台支店、東京第一支店、東京第二支店、
北関東支店、甲信越支店、横浜支店、名古屋支店、
京都支店、大阪支店、神戸支店、高松支店、広島支店、
福岡支店
(その他全国の主要都市に営業所等を設けております。)

工 場
城東工場(大阪府)、フジヤマ工場(静岡県)

研 究 所
水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所、筑波研究所(茨城県)

海外現地法人
オノ・ファーマ・ユーエスエー インク(米国ニュージャージー州)
オノ・ファーマ・ユーケー・リミテッド(英国ロンドン)

役員(平成22年3月31日現在)

代表取締役 取締役社長	相 良 暁
常務取締役	森 本 公 也
常務取締役	川 澁 和 一 十
常務取締役	粟 田 浩
取締役	藤 吉 信 治
取締役	高 橋 文 夫
取締役	小 野 功 雄
取締役	遠 藤 尚 信
取締役	市 川 弘
取締役	福 島 大 吉
取締役(非常勤)	松 岡 昌 三
監査役(常勤)	島 田 重 夫
監査役(常勤)	佐 野 敬
監査役	間 石 成 人
監査役	荒 木 靖 夫

(注)1. 監査役 間石成人および監査役 荒木靖夫の両氏は、社外監査役であります。

2. 当期中の役員の異動

- 平成21年6月26日開催の第61回定時株主総会終結の時をもって、上野利雄氏は、任期満了により取締役を退任いたしました。
- 平成21年6月26日開催の第61回定時株主総会において、遠藤尚信氏は新たに取締役に選任され、就任いたしました。
- 平成21年4月28日開催の取締役会において、市川 弘氏は常務取締役から取締役にになりました。
- 平成21年6月26日開催の取締役会において、福島大吉氏は、代表取締役・取締役会長から取締役にになりました。
- 平成21年6月26日開催の取締役会において、粟田 浩氏は、常務取締役に選定され、就任いたしました。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス http://www.ono.co.jp/
上場証券取引所	東京・大阪証券取引所（証券コード 4528）
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター 電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
（郵便物の送付先） および電話照会先	
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 「配当金計算書」について
配当金の支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。
*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。